



episode.04

竹と生きる島の暮らし

話し手 畜産業(牛) 硫黄島地区長

徳田 保さん (昭和29年10月25日生)

聞き手 三島村立 三島硫黄島学園

7年
8年
9年

何気なく見る竹の価値

中学から高校に入るぐらいの時かな。竹の需要がとても多くて、島から日本全国へ竹を送っていたよ。それが、昔のお金にすると1把が200円ぐらい。今のお金にすると2,000円ぐらいになるんだけど。山に行くと竹を切って綺麗に枝をとって棒だけにして、それを「1把いくら」というふうで売って、まとめて出荷しよったね。

昔、タケイチ商店というのがあってね。大分の日田市から来た人が経営してて、ここで物干し竿を作りよったの。竹は曲がってるから、蒸気で熱くして急激に冷やして真っ直ぐにしていた。島の海岸に海の家っていうのがあってね、その海の家も竹を使っていたよ。毎年毎年大きい家を竹で建てた。



祭りの下の力持ち

柱松(はしたまつ)という祭りには、竹が使われる。昔は基本、学校の先生も含めて各家庭、竹を2把ずつ出すっていう規則があったんよ。それを集めて柱松を作りよったんよ。もう30年ぐらい前かな。今は大体5月ぐらいに、ある程度地区で若い人をお願いして、柱松ができるぐらいの量の青い竹を切ってもらうわけ。そして、8月まで竹を乾かしている。竹を取る場所は決まっていない、どこでもいい。最近は東温泉の先の左の方から取ってる。今年もそこへ行ったの。

あとメンドン。メンドンのあの面よ。面を作る時は竹を使ってる。竹を取ってきて、割ってその皮を使うわけよ。皮が強いから皮じゃないとダメ。そして綺麗に皮だけ取って薄くして、型を作っていくわけよ。間を縛って行って、鼻から口から全部を作っていく。それが土台。土台をテゴって言う。テゴ盛りに新聞紙を貼って作っていく。テゴって知ってる?ばあちゃん達が背中にしょってる籠よ、あの竹籠をテゴという。メンドンの土台も竹籠と同じように作るからテゴ。被るところは竹籠なんだ元々。



温故知新の心持ちで

竹は、一晩でずいぶん伸びるというもんね。こんないっぱいあるんだから何とかならないのかな、と思ったりするよね。よそから来た人たちが、「島にはこんなに良い物がある」と言う。昔、硫黄がすごくお金になった時代もあったわけだから、竹が何十年何百年先に活用できる時代が来るかもしれない。人間の能力っていうのはだんだん進化していくわけだから。いろんな人たちの知恵を集めればいいね。

昔は、うちの親父なんか朝から晩まで山に入って竹を切ってくるわけ。朝暗い時から行くんだよ。そして暗くなるまで帰って来ないんだよな。僕も親父の手伝いで、けもの道を通って竹を山の奥から運んで来てた。それくらいしよったね。頑張れば頑張るほど収入になるから、やっぱりやり甲斐がある。仕事はなんでもそう。頑張ったことが返ってくれば、もっと頑張ろうって思う。あなた達も大きくなって仕事をするから、そういうふうになってくれればと思う。おじさんも、まだまだ、島のために頑張らんといかんからね。頑張る甲斐があります。



聞き書きコラム

柱松～受け継がれる竹を使った盆行事～

平安時代、鬼界ヶ島(現硫黄島)に流された俊寛僧都の霊を慰めるために行われている柱松。「ハシタマツ」と呼び、毎年恒例の盆行事の一つである。まず、ご先祖様の霊が通る道を掃除することから始まる。お墓や仏壇を綺麗にし、8月15日の朝から海岸に柱松を立てる。夕方から長老の家で宴会が始まり、祝の歌も歌われる。日が暮れると柱松に松明で投火し、盆踊りを2晩踊って祭りは終わる。最初に投火した人は幸せになれるという。

三島硫黄島学園 8年 持橋 七彩葉